

家庭数

保護者様

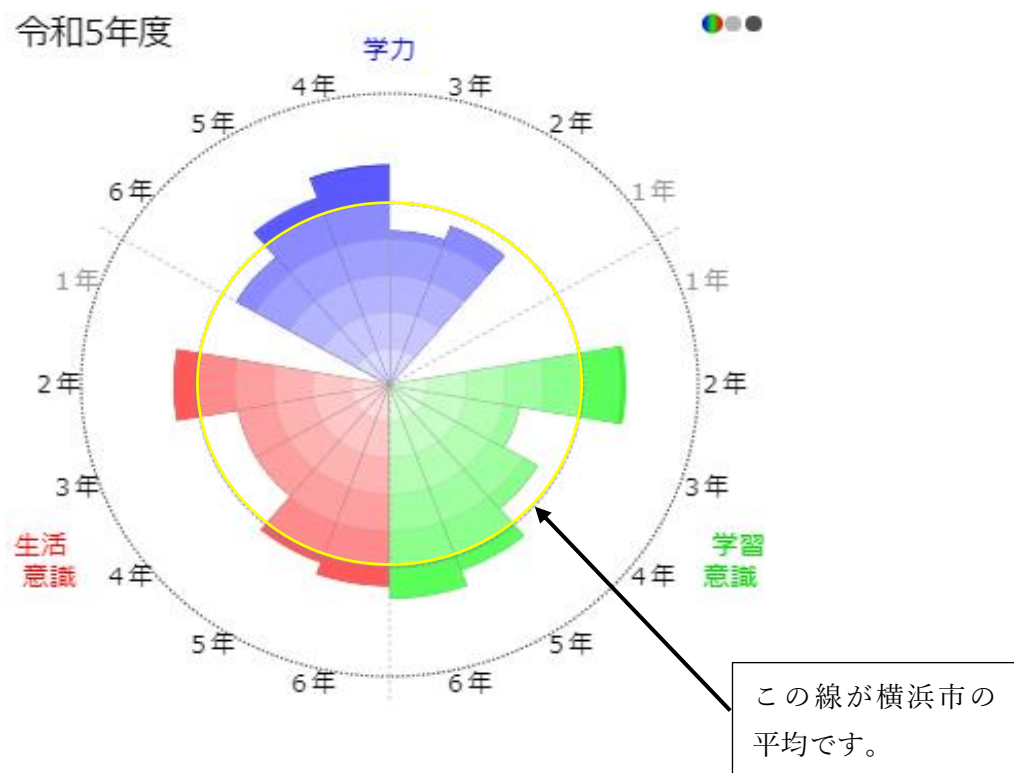
横浜市立東汲沢小学校

校長 丹羽 正昇

令和5年度 横浜市学力・学習状況調査についてのお知らせ

本年度4月に2年生から6年生を対象に実施しました横浜市学力・学習状況調査の調査結果がまとまりました。横浜市の調査結果の公表を受けて、東汲沢小学校においても教育の成果と課題の把握及び改善を図るために結果概要を報告いたします。

なお、今回の調査により測定できるのは、学力の一部であり、学校の教育活動の一側面に過ぎません。また、この調査は学校と学校や個人と個人を比較したり、集団の中の個人の順位を求めたりする目的のものではありません。保護者の皆様には、本調査の趣旨を十分にご理解いただきますようお願いいたします。またこの結果を学年毎に分析するとともに、児童の実態を踏まえ、今後の指導に生かしていきます。



令和5年の4月に実施しているため、学力調査の内容は前学年の内容です。生活意識については、2年生、5年生、6年生が市の平均を上回っています。また学習意識については、2年生、5年生、6年生は市の平均を大きく上回っているのに対して、3年生、4年生は平均をやや下回っています。学習に対する意欲が高い児童が多いことが分かります。学力については、学年ごとにチャートグラフの結果が出ています。詳細については3月末までに東汲沢小学校のホームページに掲載しますのでご覧ください。

ここには、各教科の分析を載せていますが、本校では、特に国語科の情報活用能力の育成に力を入れていることから、参考までに国語科のチャートグラフを掲載します。

【学年】 ○特によいと考える教科と内容 ●指導・改善が必要と考える教科と内容

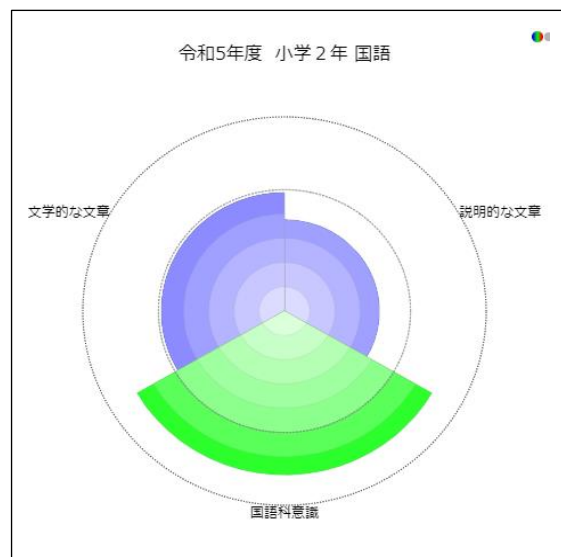
◇現2年生

○国語「文学的な文章」…登場人物の会話を基に、内容の大体を捉えることは市の平均を上回っていた。また第一学年で配当されている漢字を使うことができている。

○算数「統計」…複数のグラフを関連付けて読み取ることができている。

●国語「説明的な文章」…文章の中の重要な文を考えて選び出すことに課題がある。

●算数「式」…加法の計算については96%の正答率であったが、既習事項を活用して減法の計算の仕方を考えることについては20%を切る結果であり課題がある。



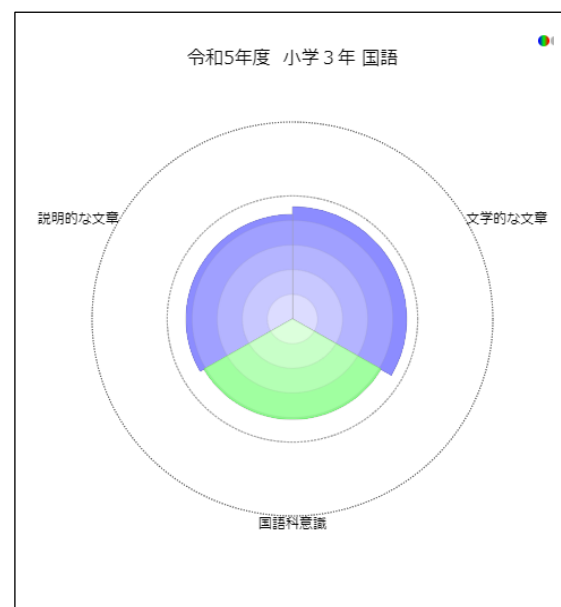
◇現3年生

○国語「文学的な文章」…登場人物の様子を想像することができている。また、身近なことを表す語句を使うことができる。

○算数「統計、数」…資料をグラフに表すことができている。示された大きさを分数で表すことができる。

●算数「空間図形、平面図形」…立体を構成する面の形を捉えることに課題がある。数では念頭操作を基に示された大きさを分数で表す力が市の平均と同等だが、正答率が2.5割程度だった。また平面図形では、基本図形を確かめるために、身の回りの物の特徴を生かす力が市の平均より低く課題である。

●国語「説明的な文章」…文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことに課題がある。



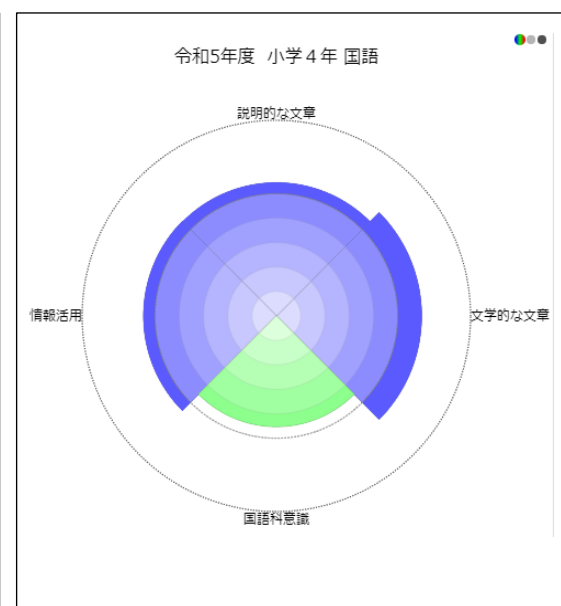
◇現4年生

○国語「文学的な文章」…登場人物の行動の理由を想像することができている。また、修飾語と被修飾語との関係について理解している。

○算数「統計、数」…表を、与えられた条件と関連付けて解釈することができている。数では「比較量」を基に、「基準量」と「分数で表された割合」を判断することができている。

●理科「粒子」…自由試行をして気づいたことや疑問から、問題を見いだすことに課題がある。

●国語「説明的な文章」…指示する語句の役割を理解することに課題がある。



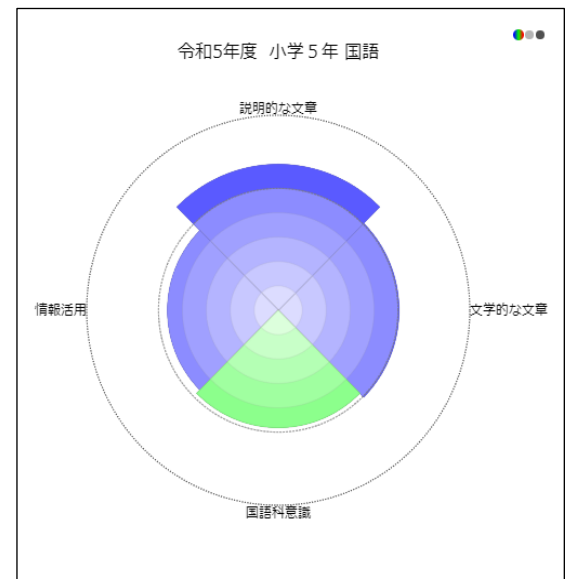
◇現5年生

○国語「説明的な文章、文学的な文章」…元の文章の表現をそのまま生かして要約することができている。登場人物の行動の理由を想像することができている。

○算数「式、数、統計」…除法の計算は96%以上ができている。「比較量」を基に、「基準量」と「分数で表された割合」を判断することができている。また、表の内容を読み取ることができている。

●国語「情報活用、文学的な文章」…考えとそれを支える理由との関係について理解することに課題がある。また、登場人物の気持ちの変化を具体的に想像することに課題がある。

●算数「空間図形」…立体図形の構成要素を適切に測定することに課題がある。



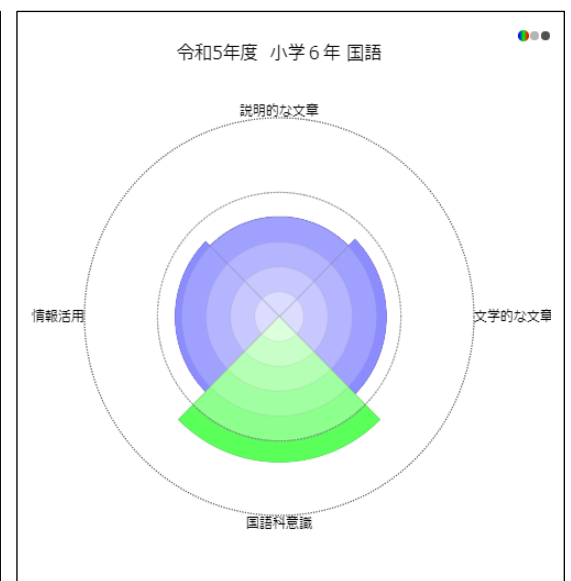
◇現6年生

○国語「文学的な文章」…登場人物の相互関係を捉えることができている。描写を基に登場人物の心情の変化を捉えることができている。

○算数「空間図形」…複合図形の体積を求める式を判断することができている。

●国語「説明的な文章」…事実と意見との関係を捉える問題については全体の16%の正答率であり課題がある。

●算数「式」…思考過程を適切に表す数直線を判断する力については横浜市の平均より9%低く、53%であった。



上の分析をもとに、各学年で今後の学習に生かしていきます。

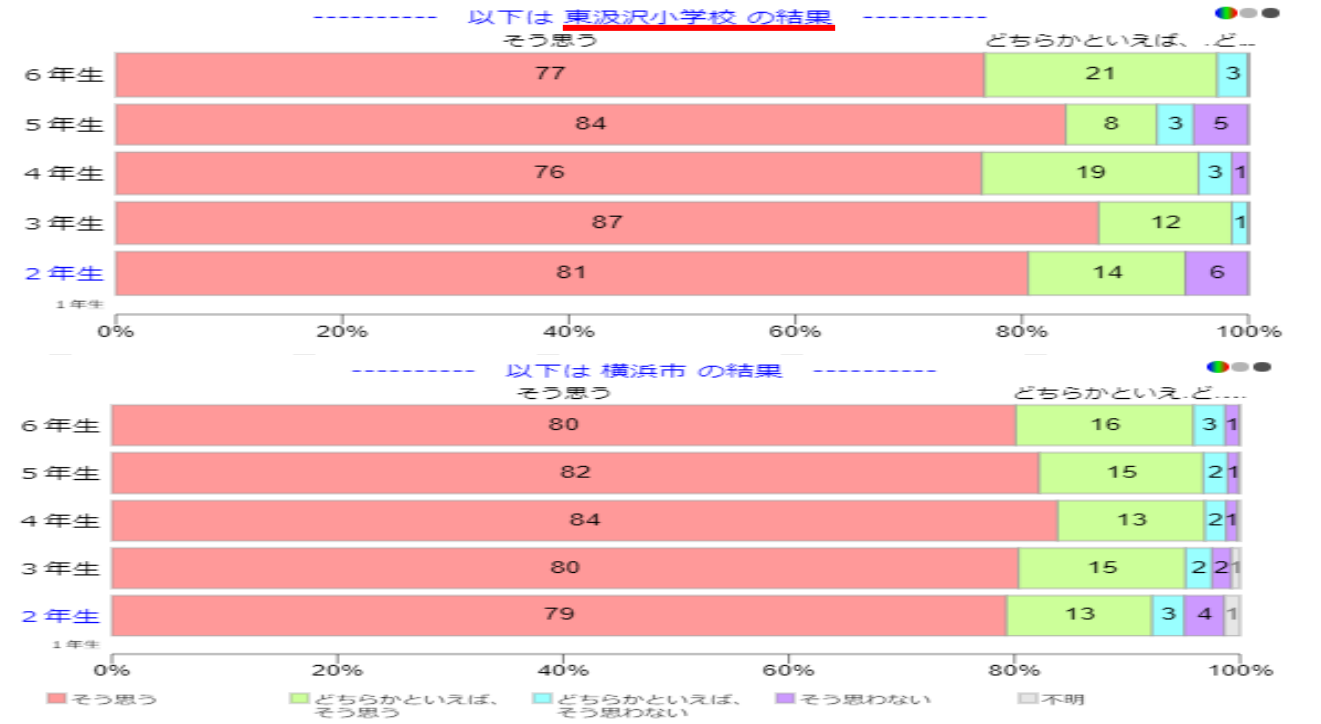
【生活意識】

いくつかの項目を調査結果として抜粋して報告させていただきます。

〈自己意識〉

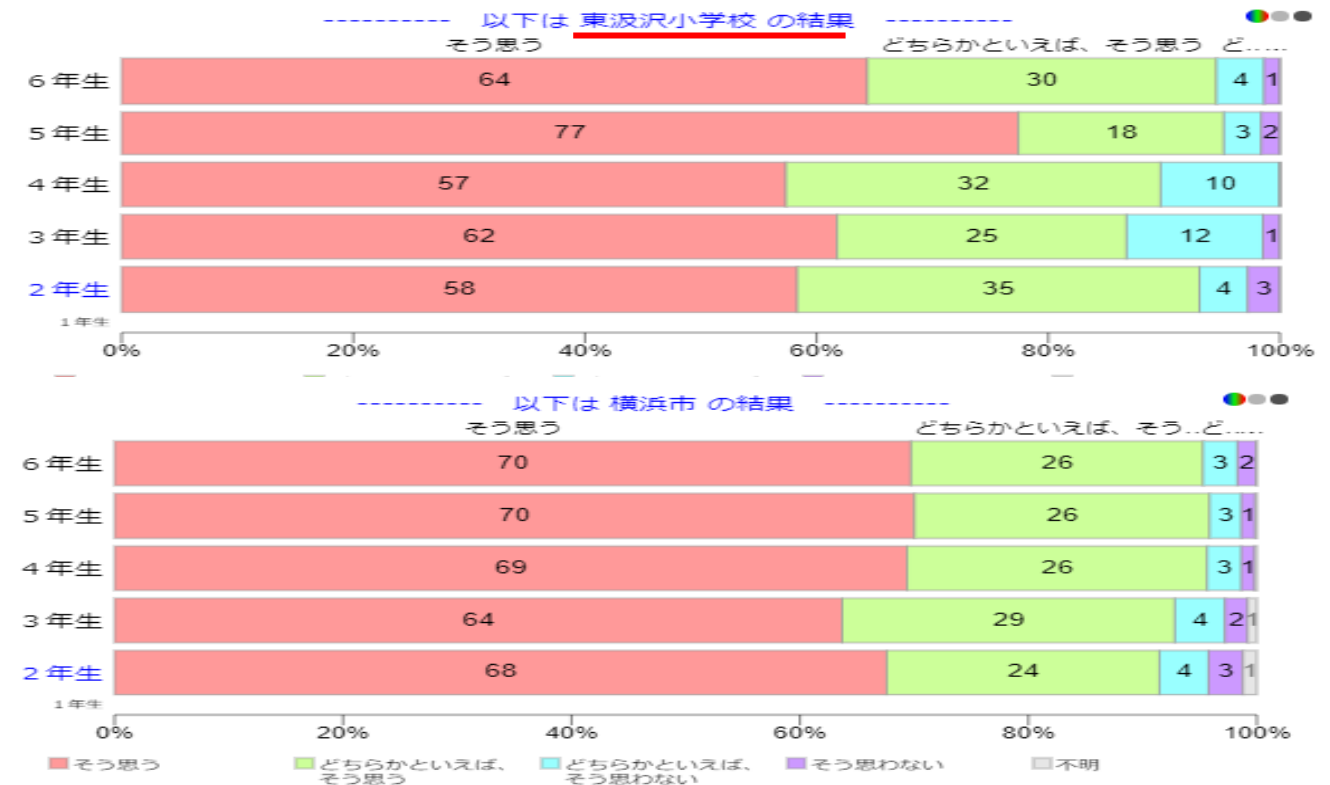
【いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか】

◇「いじめはどんな理由があってもいけないこと」について「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した児童が90%以上だった。特に高学年の意識が強く、ほとんどの学年で市の平均を上回っている。



【人のためになることをしたいと思いますか】

「人のためになること」について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している児童が85%を超えている。また5年生以上では、90%を超えている。

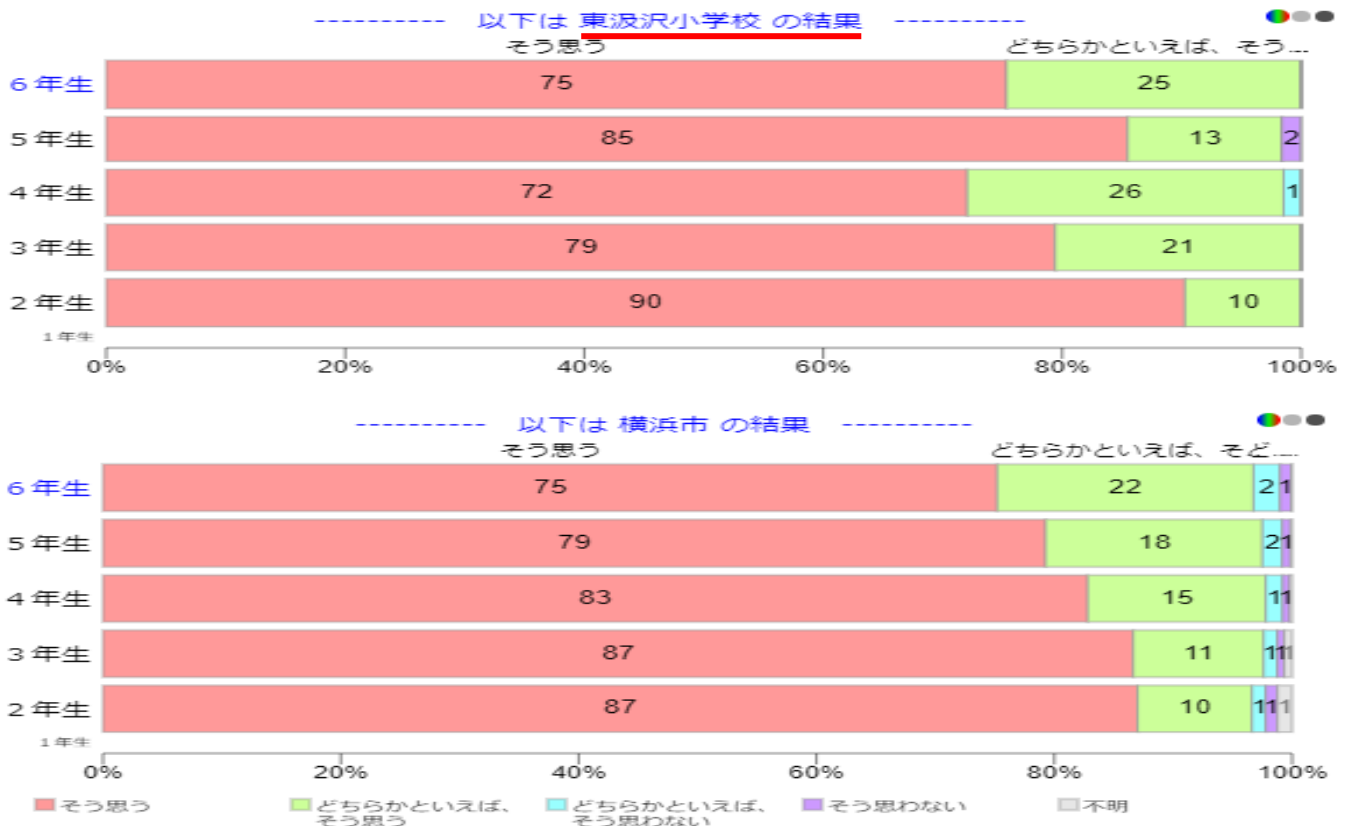


他の人を大切に思う児童が育っている。

〈規範意識〉

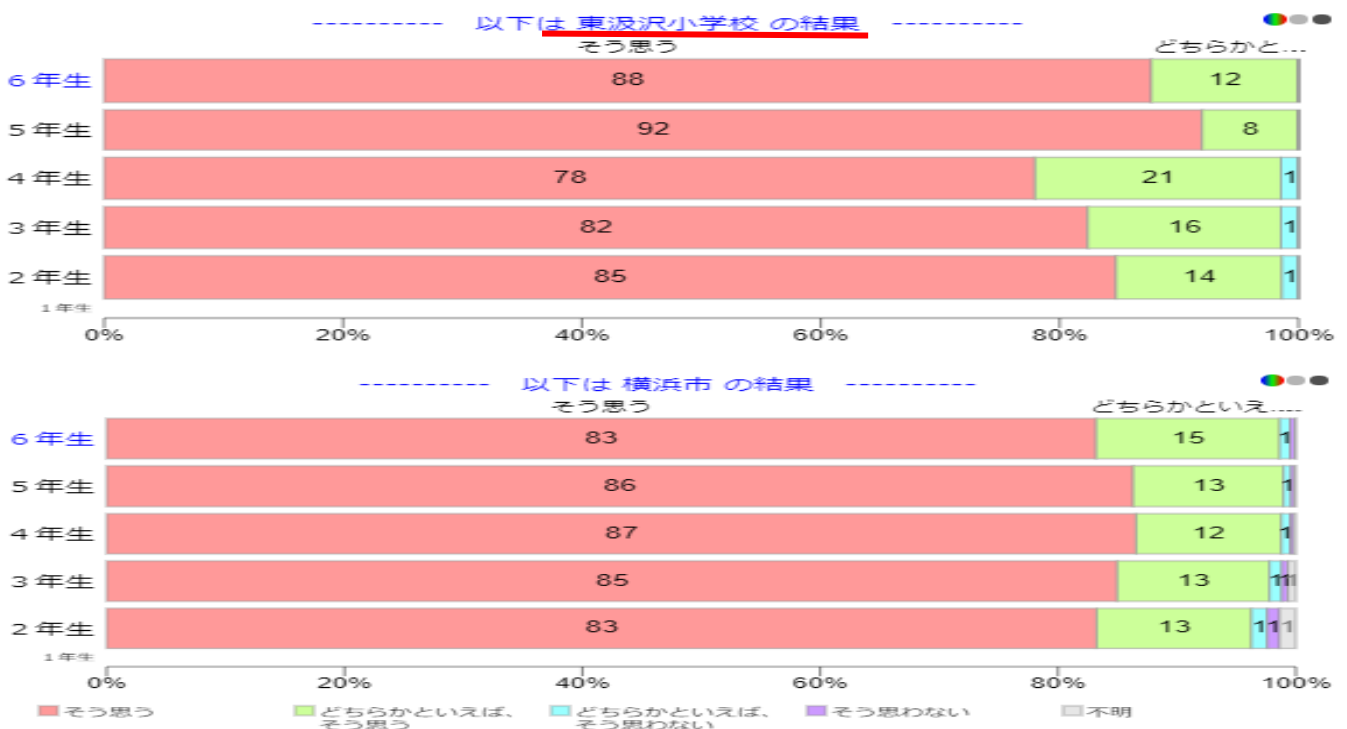
【学校や社会のきまりを守ることは大切だと思いますか】

「学校のきまり」について80%の児童が「そう思う」と回答し、市の平均を上回っている学年が多い。



【友達や家族との約束を守ることは大切だと思いますか】

「友達や家族との約束」については市の平均よりも高く「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせるとほぼ全員が約束を大切にしていることが分かる。

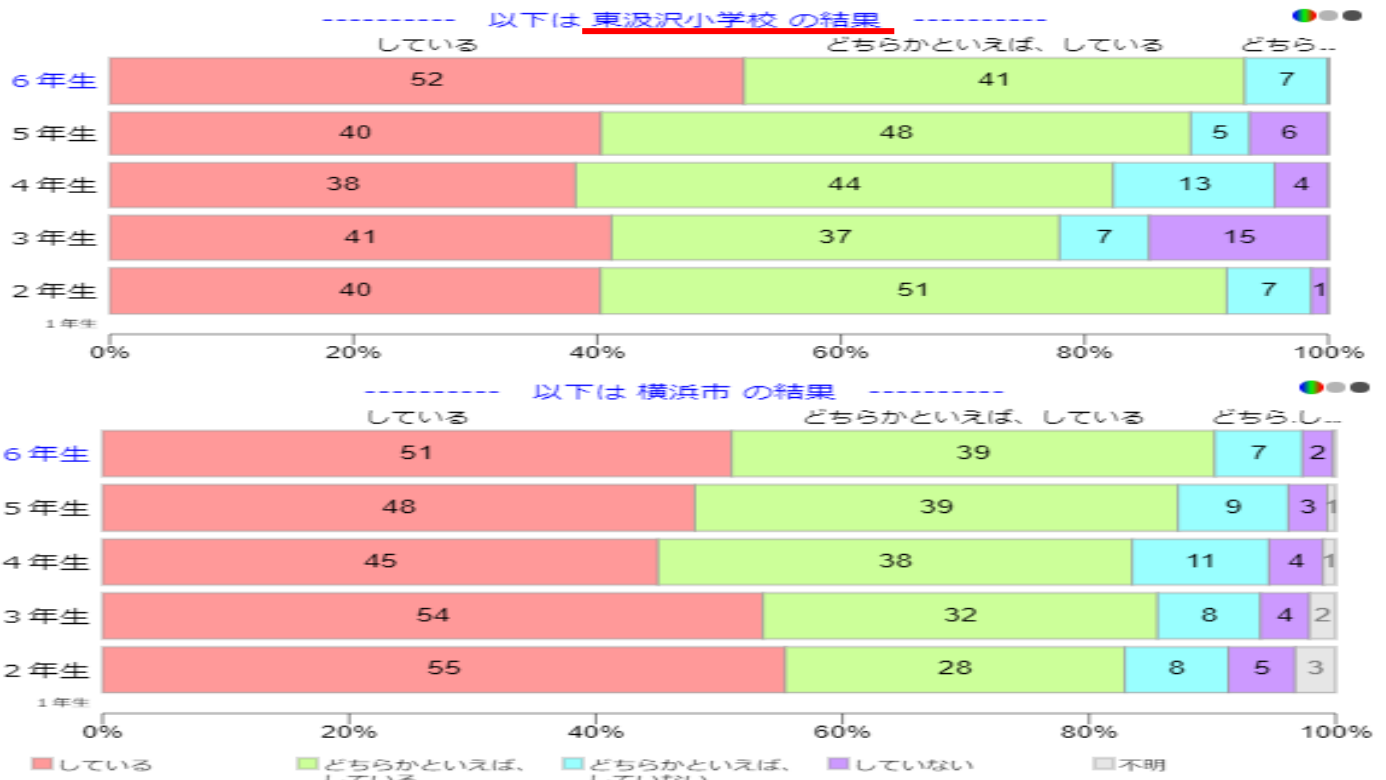


約束やルールを守って生活することを大切に思っている児童が多い。

〈情報活用能力〉

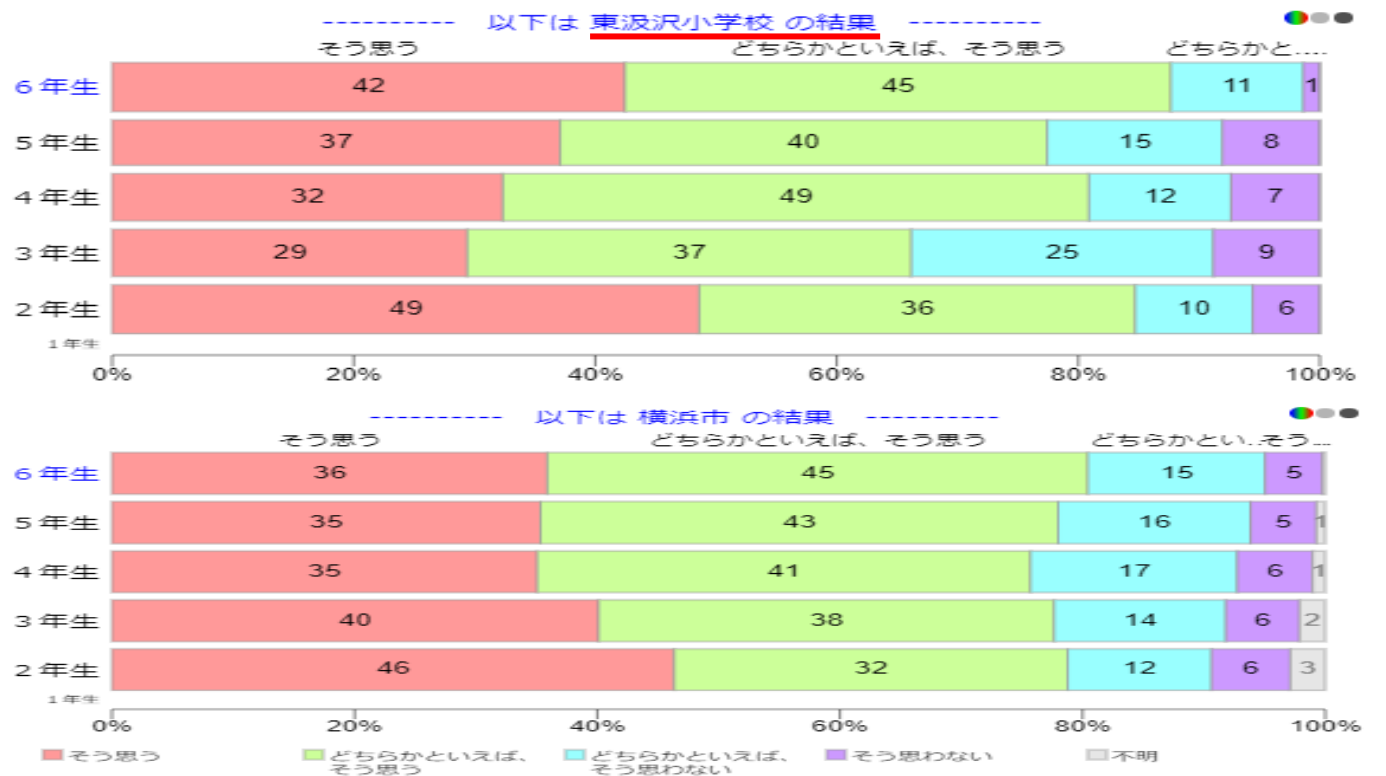
【課題の解決に当たっては、さまざまな情報の中から、必要なものを選ぶようにしている。】

「している」や「どちらかといえばしている」の回答が75%以上である。市の平均を上回っている学年が多い。



【自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集めたり話し合ったりしている。】

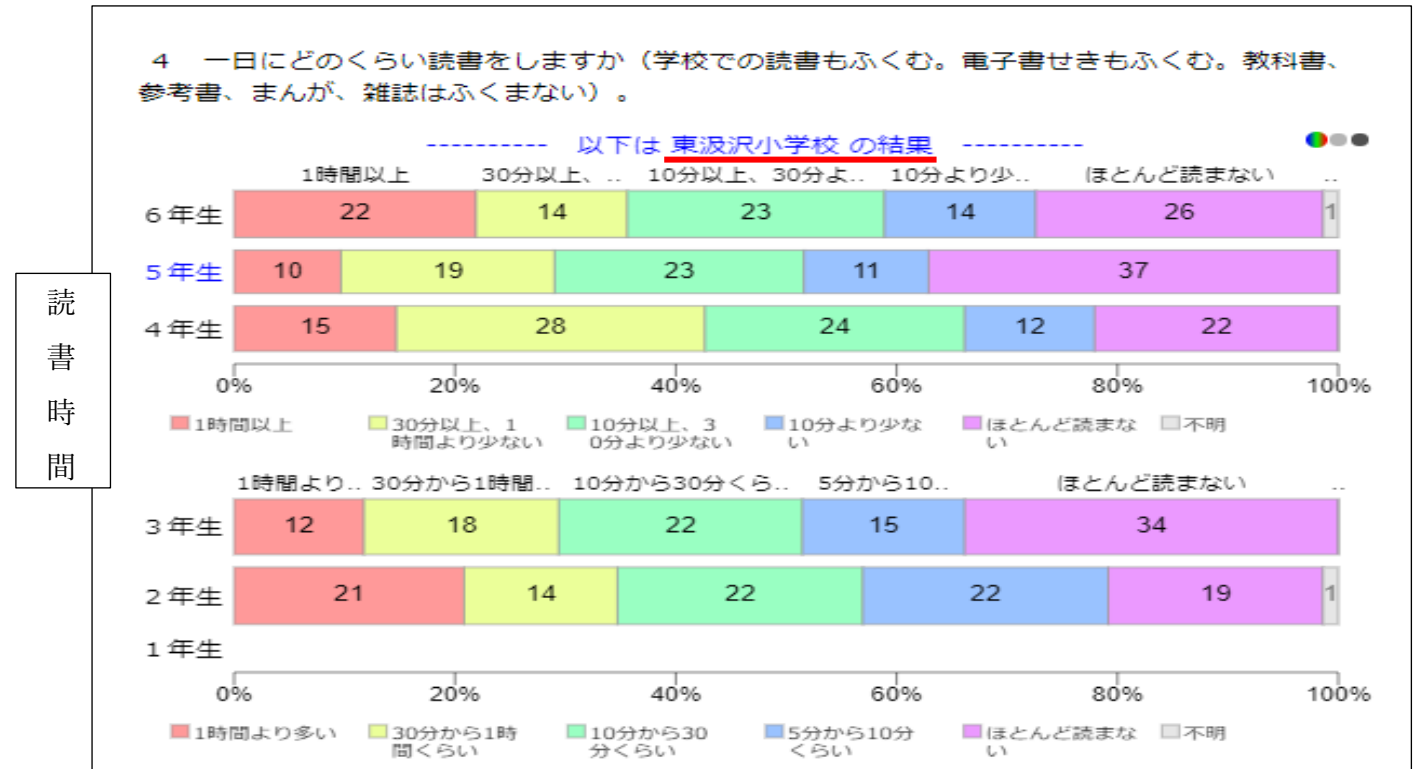
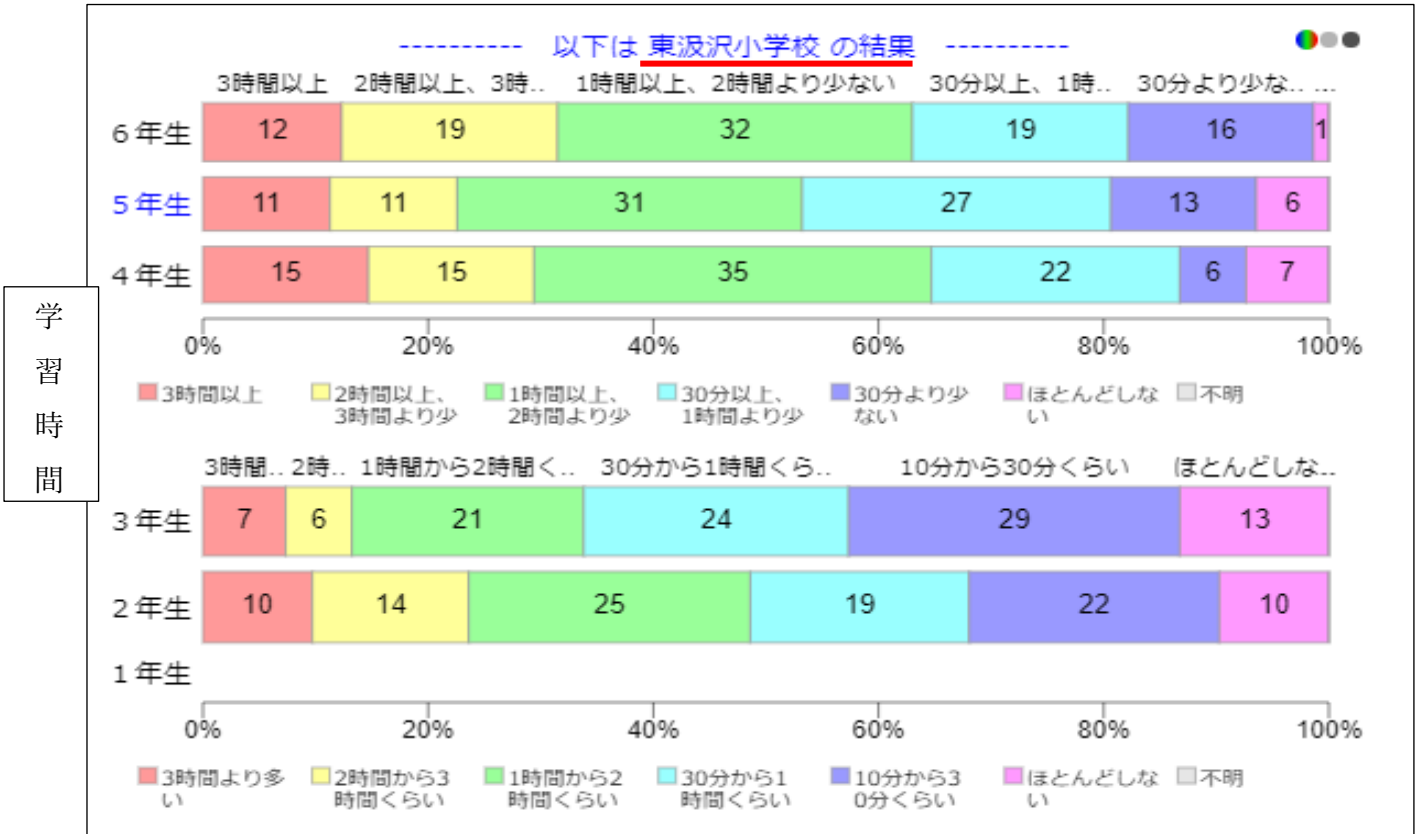
多くの学年で「そう思う」や「どちらかといえばそう思う」の回答が70%以上である。市の平均を上回っている学年が多い。



情報活用能力の育成に力を入れてきた本校の児童たちは、自分たちで課題を見つけ、解決に向けて情報を集めたり、話し合ったりする力を意識し、活用しようとしている児童が多い。

〈校外生活〉

一日の学習時間では、学年が上がるごとに学習に取り組んでいる児童が増えている。学習時間も読書時間も多くの時間取り組んでいる児童とそうでない児童との差も大きい。



これらの調査結果を踏まえて、今後も学校と家庭や地域との連携を図りながら、児童の教育にあたっていきたいと考えます。ご協力よろしくお願ひいたします。